

森林教育とボランティアによる森づくりの取組について

秋田県仙北地域振興局 桜田 智也

1. はじめに

近年、地球規模での環境保全や資源循環型社会の構築が重要な課題となっているが、スギ木材価格の下落に伴う採算性の悪化や地域林業者の高齢化や担い手不足、都市部への転居等により中山間地域だけで森林の手入れをすることは困難となっており、都市部も含めた国民の理解と参画による森づくりを推進する必要が高まっており、また、総合的学習の導入・実施に伴い、森林・林業教育や体験学習の要望が学校関係から増加しつつある。

仙北地域振興局森づくり推進課には、行政業務との兼任で林業改良指導員が8名配置されており、普及指導の重点事項の一項目として、「林家、青少年、一般県民等を対象とした林業の普及」を掲げており、その中から小学生・一般県民・森林ボランティアを対象とした取組を報告する。

2. 県民の森林に対する意識

県民参加による21世紀の森林・緑づくり報告書からの抜粋
(県内に在住する20歳以上の男女1千人を対象)

(1) 森林に親しんだ機会について

① 1年間に森林に親しんだ機会の有無

森林に行ったことのある人 63%

ア. 目的別(複数回答)

1位 山菜採り等 57%

2位 のんびり 41%

3位 キャンプ等 31%

.....

8位 ボランティア 7%

※県民の森林に親しむ機会は山菜採り等で意外と多い

(2) 今後とも守って行くべき森林の働き(複数回答)

1位 温暖化防止 58%

2位 洪水の緩和 56%

3位 水の浄化 34%

.....

8位 林産物 19%

※スギ人工林面積全国1位の秋田県でも森林の働きで林産物をあげる人は少ない

(3) ボランティア活動について

①ボランティア活動への関心

関心がある	28%
ある程度関心がある	46%
あまり関心がない	19%
関心がない他	7%

※なんらかの関心がある人が74%と多くの人に関心をもっている

②森林づくりに参加したいと思うもの（複数回答）

1位 緑の募金	35%
2位 ボランティア	34%
3位 既所有	17%

※緑の募金の認知度とボランティアへの参加が高い比率を占めている

3. 取組内容

県民の意識調査からは、山菜採り等で森林へ親しむ人が意外に多いこと、木材生産などの森林の働きへの期待度の少なさ、また、ボランティア活動への関心の高さが伺える。

こういった県民意識を、森林・林業への理解や森林ボランティア活動へ結びつけることや、子供達の森林・林業への親しみを増すため、仙北地域振興局では「小学生等への森林・林業教室」、「一般県民への森林林業体験ツアー」、「森林ボランティアへの体験学習」を実施した。

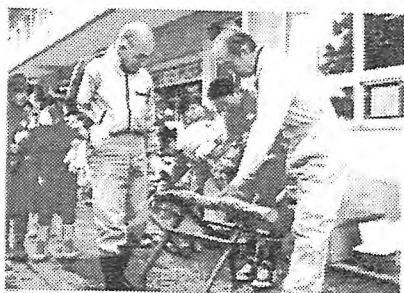
(1) 小学生等への森林・林業教室

角間川小学校を対象として、低学年（1、2年）・中学年（3、4年）・高学年（5、6年）に合わせ、それぞれ異なるプログラムで実施した。

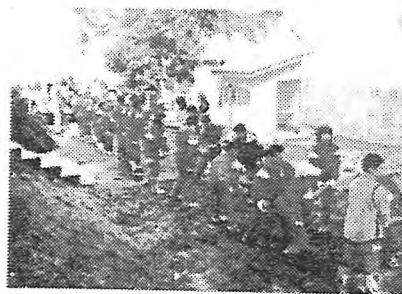
①全校生徒対象のきのこ栽培体験教室

全校生徒を対象に、バス移動を伴わない学校内でできる内容で体験できるものとして、きのこ栽培体験を選び実施した。

きのこの説明から、ほだ木への穴あけ体験、こま打ち体験を低学年、中学年、高学年毎に4月11日から3日間にわたり実施し、最後に全校生徒でこま打ちの終わったほだ木の運搬、伏せ込みを行い、その後先生・生徒で管理収穫を行っている。



ほだ木への穴あけ体験



ほだ木運び

② 3・4年生対象の森林・林業教室

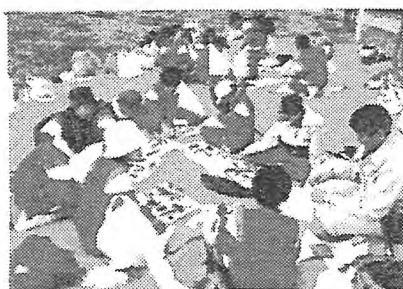
中学年を対象に自然観察などを通して樹木の名前や生育環境を知り、また、木工体験などを通して木材の特徴や利用などに関する知識を学ぶため、10月11日近隣の森林公園で、自然観察と樹木の葉やきのご採取、木の葉ときこの図鑑作り、丸太の円盤切り体験及びコースター作りを行った。



森林林業の説明と班編制



班別の樹木観察



木の葉ときこの図鑑作り



丸太の円盤切り体験

③ 5・6年生対象の森林・林業教室

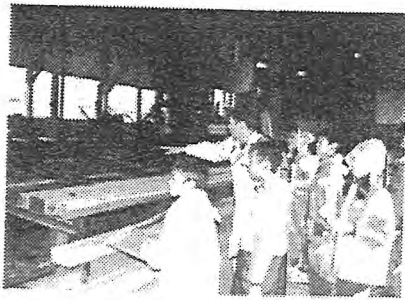
10月8日、高学年を対象に、森林を育てることや、スギの伐採の様子、年輪・樹高測定、木材を利用のための地元スギ製材工場の見学、木造建築現場の見学を行い、木を育て、伐採し利用することの意義を体験した。



ハーベスターでの伐採



年輪の測定



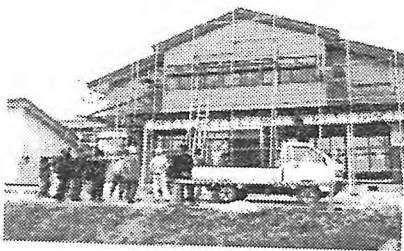
地元スギ製材工場の見学



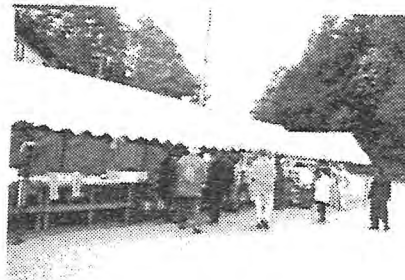
木造建築現場の見学

(2) 一般県民への森林林業体験ツアー

10月19日、一般県民対象に、参加者を公募で募集し、森林林業への理解と関心を高めるとともに、参加者が楽しめる内容として実施したもので、秋田スギ住宅のPRのため平成14年度より県単独事業として実施されている秋田スギの柱(4寸3mもの一軒当たり90本)プレゼントの秋田スギ住宅建築現場の見学、地域の森づくりを担う地元森林組合活動PRのための森林組合祭りの見学、午後からは秋田スギ林の枝打ち体験、また、管内西木村特産の西明寺栗の説明と栗園での栗拾いを実施するとともに、参加者へ各種森林・林業のパフレットを配布し、森林林業の重要性、木材利用の大切さをPRしている。



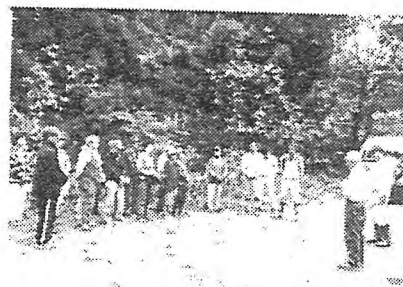
秋田スギ木造住宅建築現場見学



森林組合祭りの見学



スギ枝打ち体験



西明寺栗園での栗拾い

(3) 森林ボランティアへの体験学習

秋田県では森林ボランティアの登録制度として、18歳以上の県民を対象に森づくりを体験されたい方、参加されたい方が県緑化推進委員会へ森林ボランティアとして登録することにより、各種団体が行う森づくりのイベント情報のお知らせや、体験講習会を実施している。

仙北地域振興局では、10月12日森林ボランティア対象の体験講習会として、ボランティア登録者へダイレクトメールで開催案内を通知し募集実施したもので、内容は枝打ち体験講習として、枝打ちの目的や施業の時期、実施方法を指導し作業体験をしてもらうもので、あくまでも森林施業を目的としたものです。



森林ボランティアの参加者



枝打ち作業

4. 結果及び考察

このような内容で、小学校から一般県民、森林ボランティアへ各種取組を実施したが、高学年の小学生への活動後のアンケートでは森で遊ぶのが好きが活動前に比べ16人から19人へと、森の木を切ることについては、良いが活動前3人から活動後6人、悪いが活動前9人から活動後5人へと、森への親しみや、木材利用のために木を切ることについての理解が増していることが伺えます。

また、一般県民への森林林業ツアーでは、参加者の森林林業への関心や理解が高まったことや、森林ボランティアのパンフレット配布などにより、ボランティア登録する人が少しずつではあるが増えており、こうしたことから、ボランティア講習会への参加も昨年度の14人と比べ今年度の参加者は、22人と増加しています。各種学習会などを通じての課題であるが、バスや保険料などの必要経費の予算確保、目的にあった適当な距離にあるフィールドの確保、指導員の経験不足などの改善が今後の各種学習会を進めて行く場合必要と考えられた。

また、今後の普及指導の方向性としては、小学生などへの森林林業教育については、教育機関側との連携や課題検討の綿密な打ち合わせや役割分担の明確化が必要と考えられ、今後ボランティアによる森づくりを進めるにあたっては、行政側の活動を進めるだけでなく、ボランティア側の活動を進めることも求められるところであり、森林所有者と県民などの連携をすすめることにより、森づくり活動を進める必要があると考えられ、今後、森林所有者と都市住民との交流などを進めるサポート的なことがらも、進めて行く必要があると考えられます。